

1. まちで見かけるバリアフリー

1 駅などのバリアフリー

駅や船、バス、タクシーなどの乗り場は、みんながどこかへ出かけようとするときの重要なポイントとなる場所です。学校や仕事、遊び、または病院に行ったりするために、毎日さまざまな人たちが集まります。みんなが自由に出かけて、移動することができるように、駅などにはさまざまなバリアフリーの工夫がされています。

エレベーター

エレベーターには、車いすの人や目の不自由な人が安心して利用できるように、いろいろな工夫がされています。車いすの人やベビーカーを押している人が、転回せずにそのまま進行方向に出られるように、入口と出口が別々に付いている「スルー型」もあります。



目が不自由でも
さわってわかるボタン

スルー型エレベーター

エスカレーター

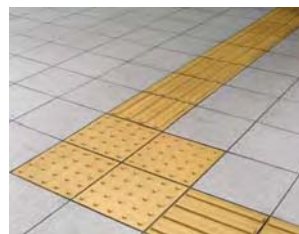


ステップに乗ってすぐに段差が出てくるのではなく、最初のステップ3枚分が平らになることで、落ち着いて乗れるように工夫しているエスカレーターがあります。また、「このエスカレーターは、下り、〇〇方面行きです」と音声案内で知らせるものもあります。

また、「このエスカレーターは、下り、〇〇方面行きです」と音声案内で知らせるものもあります。

誘導用ブロック

誘導用ブロック



誘導用ブロックは、目の不自由な人が安全に歩行するためのものです。安全な道すじを示す「線状ブロック」と、一時停止や注意をうながす「点状ブロック」の2種類があります。



線状ブロック



点状ブロック

スロープ



スロープの勾配（傾き）は、手動車いすの人に配慮して、急になりすぎないようにしています。

また、長いスロープには、途中で休めるように、踊り場（平らな部分）が作られています。

たきのう
多機能トイレ



車いすの人が
使えるように、
出入口や個室の
幅が広く、段差
がありません。

車いすから便座に移動するときにつかむ手
すりがついています。また、人工肛門・人
工膀胱をつけた人（オストメイト）のため
の洗い場や、ベビーベッド・ベビースタ
ン等、様々な機能を備えています。

じどうけんばいき せいさんき
自動券売機・精算機

車いすに座った状態でもボタンに手が届
くように、

- ①カウンターの高さが低くなっています。
- ②カウンターの下に車いすの足置き部分
が入るように、奥行きが広がっていま
す（蹴込み）
- ③ボタンやお金の投入口を低い場所に配置
しています。



かいさつぐち
改札口



車いすの人が通
りやすいように、
幅の広い改札口が
もつ
設けられていま
す。また、有人改
札口には、耳の不自由な人と筆談（文字
や図を書いて伝える）をするための道具
やメモを置いています。

さつぐち ふじゆう ひつだん
札口には、耳の不自由な人と筆談（文字
や図を書いて伝える）をするための道具
やメモを置いています。

ホームドア

線路への転落防止のため、電車が到着す
ると開くホーム柵やホームドアを設置する
駅が増えていきます。特に目の不自由な人
にとって、駅のホームは命に関わる危険と隣
りあわせの場所です。車いすの人、せま
いホームやたくさん人がいるホームでは、
転落の危険にさらされています。



ホーム柵

ホームドア

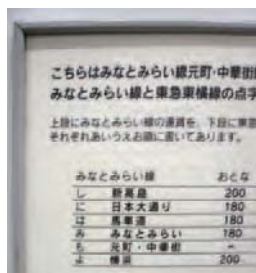
じょうほうていきよう

さまざまな人にあわせた情報提供

目の不自由な人のために、点字の運賃表や、駅内や駅の周りを案内する触知案内図（手
でさわったときの凹凸でわかるように作られた地図）、音声で現在位置を案内する装置など
があります。

駅のホームでは、耳の不自由な人に、電車がホームに入ってくることを知らせるため、
電光掲示で「電車が来ます」と表示し
たり、床面のラインが点滅します。

また、通常の運賃表や路線図も、こ
どもからお年寄りまで、みんなに見や
すくわかりやすいように考えて作られ
ています。



てんじうんちんひよう
点字運賃表



あんないず
さわってわかる案内図